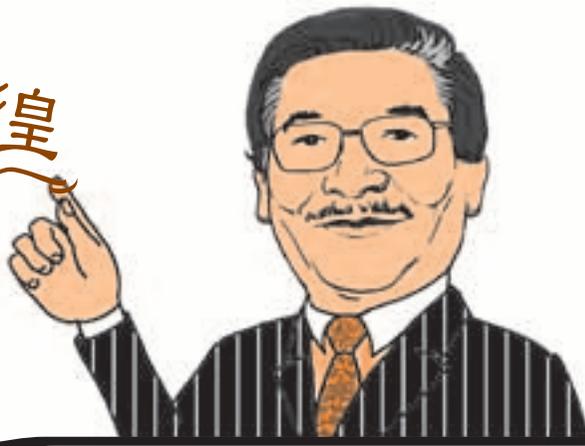


# 久保利英明の グローバル彷徨



第7回

## ジブチの過去・現在・未来を 考える——基地の国から観光立国へ

イラスト・題字：長峯亜里

### 日本の生命線を確保する橋頭堡

アフリカ大地溝帯(グレートリフトバレー)は紅海からエチオピア、ケニア、ウガンダ、タンザニアへと南下していく。ジブチはその北端である。ジブチの国土は四国より一回り大きい程度の小国である。サイの角に似ていることから「アフリカの角」と呼ばれる地域が、エリトリア、ジブチ、ソマリアの3カ国にまたがっている。ジブチには、イスラム過激派対策のための米軍の基地がある。また旧宗主国フランス軍も駐留している。

この一帯は、スエズ運河を介して地中海とインド洋をつなぐ紅海の出口に当たる。アラビア半島南西部のイエメン、東アフリカのエリトリア、ジブチ3カ国の国境であるバブ・エル・マンデブ海峡は紅海とアデン湾を分けるが、海峡の幅はわずか30kmしかない。しかも、間にいくつもの島があり、可能な航路はさらに限られる。近年は石油供給の船舶を狙って、ソマリア沖海賊の活動地域にもなっている。

この海賊行為から付近を航行する船舶を護衛する目的で、ジブチに自衛隊海外派遣が行われている。海上自衛隊の護衛艦が派遣海賊対処行動水上部隊として船舶を護衛し、P-3C哨戒機が派遣海賊対処行動航空隊として空から海域を監視している。日本とジブチは経済支援を通じて良好な関係

を築くとともに、日本の生命線ともいえる石油ルートを確認する橋頭堡としているのである。

こうした成果が、2009年から11年頃まで毎年200件を越え、拘束された乗員が年間1000人を超えたという海賊行為も、私が滞在した14年12月にはかなり沈静化していた。

ついに15年には0件にまで押さえ込まれたが、海賊を生み出す国々が平和で豊かにならなければ、軍事力での制圧には限界があるだろう。

### 美しい観光地、塩の湖「アッサル湖」

アッサル湖は、ジブチの中央に位置する火口湖で塩湖である。海面下153mに湖面があり、それはアフリカ大陸の最低標高地点と言われている。死海の400mには及ばないものの世界3位の低地湖である。湖面は広く、長さ10km、幅7km、湖の表面積は54km<sup>2</sup>であり、浜名湖より一回り小さい。塩分濃度は34.8%に及んでいる。一般の海水の塩分は3~4%で、死海でさえも30%と言われるから、世界一の塩分含有率は間違いない。湖の水源は、10km南東にあるアデン湾の西端に当たるタジュラ湾の海水で潤される地下水脈とされている。夏季は50度を超える酷暑と噴気熱により、水分が蒸発して塩分だけが残留するから、ますます塩分濃度が高まる。

浅瀬をのぞくと、水際までびっしりと剣山の下